

# 国立公園を世界の旅行者の憧れに 観光資源としての活用を旅行業界も後押し

正田寛 環境省自然環境局長 & 坂巻伸昭 JATA副会長



正田局長「国立公園の可能性を高めるために、幅広い連携を」



坂巻副会長「物語」こそ旅行会社が捉える「旅」の大切な要素」

政府が策定した『明日の日本を支える観光ビジョン』の重要施策として、「ナショナルパーク」としてのブランド化が打ち出された国立公園。環境省は、「国立公園満喫プロジェクト」の推進により、日本の国立公園を世界の旅行者が長期滞在したいと憧れる旅行目的地にすることを目指しています。国立公園の観光資源としての可能性や旅行商品化に向けた考え方などについて、同省自然環境局の正田寛局長とJATA国内旅行推進委員会の委員長も務める坂巻伸昭副会長に語り合っていました。

## 「その自然には、物語がある」

——「国立公園満喫プロジェクト」について、ご説明いただけますか。

正田 2020年の訪日外国人旅行者4000万人を目指そうという政府全体の観光ビジョンの中で、施策の柱の一つとして国立公園が位置づけられたのを受けて、インバウンド対応の取り組みを計画的集中的

に実施しています。国立公園はそも

そも、優れた景観を守ろうというこ

とで、現在、全国で34カ所が指定さ

れているところです。これまで保護

と利用を進めてきた国立公園が、

観光振興の観点からあらためて資

源として注目されるようになってき

ました。観光資源としての国立公園

の可能性を高めていくためには、環

境省だけでなく地元自治体や経

済界など様々な方々と幅広い連携

を図らなければなりません。自然環境の保護と利用を両立させながら、保護してきた自然が資源になるということを多くの方に気づいていただければと思います。

また、日本の国立公園の場合、素晴らしい自然の中で、人々が生活を営んだり、地域の文化を維持してきているという特徴があります。現在、プロジェクトのスローガンとして「その自然には、物語がある。Stories to Experience — National Parks of Japan」を掲げており、そういうコンセプトを世界にしっかりと発信していきたいと考えています。

坂巻 JATAは2014年から、環境省が東日本大震災からの復興のシンボルとして三陸復興国立公園内で整備している「みちのく潮風トレイル」で、東北復興支援活動として「JATAの道プロジェクト」を実施しています。私も昨年、岩手県での活動に参加しましたが、「その自然には、物語がある」という言葉を実感してきました。宮古市を代表する景勝地の浄土ヶ浜を歩いたり、

東日本大震災に伴う津波で大きな被害を受けた山田町では、牡蠣むきを体験させていただいたりして、雄大な自然と人々の生活、地域の長い歴史が融合し、国立公園を含むエリアが形成されているという事実を目の当たりにしてきました。

そうした「物語」こそが、私ども旅行会社が捉えていく「旅」の中で、非常に重要なものになってくると考えます。旅には、旅マエ旅ナカ、旅アトという段階があります。旅マエで国立公園や地域を理解して、旅ナカで実際に現地を体験し、旅アトで振り返っていただく。それぞれの要素を大切にするので、旅の良さより一層味わっていただけののではないのでしょうか。そういう意味で、環境省による国立公園の取り組みには、非常に共感を覚えていますし、是非、一緒に進めていくことができたいと思っています。

## 「エコツーリズム」の周知を

坂巻 その一方で、阿寒摩周国立公園を訪れた際、カヌーに乗せていただいていた低視線川を下りながら、「自然の中に自分を置く」という感覚を味わいつつ、多くの人にこの感覚を知って欲しいと思う反面、大

# 「国立公園満喫プロジェクト」を語る



国立公園写真パネルの前で語り合う正田局長（右）と坂巻副会長

勢の旅行者が訪れるようになると、本来の良さが伝わらなくなるのではという疑問も湧きました。「保護と「利用」の両立が「筋縄ではないか」ということと、自然が資源になるという点もアピールしていきたいですね。」

**坂巻** 国立公園を軸に地域観光の活性化を進めていくには、そうしたエコツーリズムの考え方をどうやって旅行者の皆さんに周知していくか。国立公園ツーリズムと呼ぶべきムーブメントを拡大していくためには、とても重要なテーマとなります。

## TEJで国立公園の魅力アピール

——環境省はJATAも主催団体の一つである「ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）」にも出展されています。

**正田** 国立公園のブースを展開させていたのですが、2017年は約2000人、2018年には約3000人の皆さんに立ち寄っていただきました。多くの皆さんに国立公園への関心を示していただき、十分に情報発信を行うことができたと思っていますし、エコツーリズムの紹介もして、理解を深めていただけたようです。興味を持つ海外からの参加者も多く、会場でのセミナーも開催して、多様な形で情報を提供することができました。また、観光庁と文化庁、スポーツ庁とも協力して、4省庁の連携によるアピールも行い、大きな効果があつたのではないかと考えています。

**坂巻** TEJは、JATAとしても年に1度の大きなイベントとして重要視しており、環境省をはじめ多くの皆さんに参加していただくことが、ツーリズムを盛り上げる意味でも重要だろうと思っています。近年は、単なる「旅の祭典」とにとどまらず、展示商談会を通じてしっかりとビジネス展開もできる場として、B2Bのイベントとしても機能を強化しているところです。環境省のブース展開は、様々な国立公園で体験できる具体的な活動なども紹介されていて、非常に興味深いものでした。特に、海外の皆さんには、歴史や文化遺産ばかりでなく、国立公園に象徴される自然の魅力の奥深さも知っていただけたのではないかと



地平から昇る太陽がモチーフの「国立公園統一マーク」

は約3000人の皆さんに立ち寄っていただきました。多くの皆さんに国立公園への関心を示していただき、十分に情報発信を行うことができたと思っていますし、エコツーリズムの紹介もして、理解を深めていただけたようです。興味を持つ海外からの参加者も多く、会場でのセミナーも開催して、多様な形で情報を提供することができました。また、観光庁と文化庁、スポーツ庁とも協力して、4省庁の連携によるアピールも行い、大きな効果があつたのではないかと考えています。

## 非常に大きい旅行業界の役割

**坂巻** 日本には、素晴らしい自然をはじめ、歴史や文化など多様な魅力を持つ観光資源があり、それは一番の財産であり、強みだと思っています。各省庁や地域の皆さんと一緒に、そうした観光資源をどう磨きあげて商品化も含めた開発を進めていくか。人を動かす旅行業界は、心を動かすお手伝いも出来る仕事です。ただ国立公園に旅行者を送ればよいというものではなく、旅行会社としても国立公園の自然をどう守りながら、資源として活用していけるかという、そのような意志を持つ旅行商品をつくっていくことが重要でしょう。

**正田** 東京を離れて大阪・関西で開催される今年のTEJにも、是非、出展させていただき、地域に根差した国立公園の魅力について、関係各方面と連携しながらアピールしていくことが出来ればと考えています。

4000万人、6000万人へと拡大していくためには、きちんと日本の魅力を伝えていかなければなりません。また、外国人を受け入れる日本の方々にも、自分の国の良さを理解していただく必要があります。その両方をしっかりとやっていくことが、旅行業界の仕事だろうと思います。

**正田** 環境省では、インバウンド向けの多言語表示やビジターセンターの整備、情報発信など、様々な動きを進めていますけれども、環境省だけでなく、点と点を結びつけて線にしていくには、線から面へと広がっていくような展開をしていきたいと考えています。そのエンジンになつていただけるのが旅行業界だろうと思っています。国立公園や周辺を訪れた皆さんが、その地域のファンになつていただけるような取り組みを進めていく上で、是非、お力をお借りしなければなりません。

また、情報発信や旅行商品などにとどまらず、逆に、国立公園の活用についてアイデアをいただいたり、改善点などについても助言をいただくなど、旅行業界の役割は非常に大きいと考えていますので、是非、ご協力をいただければと思います。